

広報誌

ペケレベツとは

アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味しており、清水町の由来となっています。



ペ
ケ
レ
ベ
ツ



院長挨拶 トピックス

山田圭吾 Dr 北海道十勝清水に来てみてどうですか？

赤十字フェスティバル開催！

講演会

パークゴルフ大会

炊き出し

BBQ 開催

人事消息

編集後記



地域の品格をつくるもの

病院長
藤城 貴教

早いもので私が赤十字に奉職して22年が過ぎました。2年前、勤続20年のお祝いに本社より旅行券をいただきましたが、感染症の蔓延で使うこともままならず、先日ようやく週末を利用し道内でも人気の道南の港町の観光に出かけましたが、人気の朝市で衝撃を受けました。まず海産物から農産物まで地産品以外の“多彩”な品ぞろえ、値段は市価の数倍はするであろうと思われ、地元の海の幸を期待した私には何の魅力も感じません。更に、水槽を泳ぐ名物のイカが以前の半分程度のミニサイズで、寂寥感さえ感じました。私も含めた日本人観光客は見るにとどめ買い物を楽しむのはアジアの富裕層のみ、かつて市民の台所であった市場の歪んだ構図を目の当たりにしました。夜にふらりと入った居酒屋も言わずもがな、料理の質、量とも北海道のレベルには遠く及びません。

高齢化と過疎化が進む北海道、なかでも採取型産業に頼る港町の人口減少は著しく、政治と商業の中心と食料生産基地だけが人口を維持できる時代に突入しています。いかに地域の産業や人口を守るかは難しい課題ですが、訪問者に好印象を与えない地域は必ず衰退します。地域のあるべき姿は時代とともに変わっていきますので、未来予測に沿った産業構造の転換や医療提供体制の整備は必要不可欠でしょう。先日、出張先で伺った有名な屋台の話。地元の人は決して行かず、料金は市中と比べて驚くほど高いこと、どこか私の経験とオーバーラップしました。

地域医療を担う病院も同様で、職員や利用者が良い印象を持たない医療機関は淘汰されていくでしょう。支払う医療費は安くありません、そして医療従事者の待遇もよくはありません、しかしここは良質で安価な医療にフリーアクセス出来ることを謳う国ですから、医療の質を維持していくためには病院単独ではなく地域ぐるみの協力が欠かせません。病院の統廃合が加速度的に進んでいますが、診療の後に満足と安心を感じる病院のみが生き残ると思います。

冒頭の小旅行のお話しの続きを一つ。口直しにいわゆる老舗のラーメン店と人気のファーストフード店に行きました。開店前から行列ができるその食堂は開店とほぼ同時にスープが売り切れ、何とか滑り込んだ私は歴史を感じさせる深い風味に感動しました。ハンバーガー店もカウンターの前には長い行列、しばしば待ってアジア系外国人の店員が商品を運んでくれます。これも申し分のないボリュームと味で、朝市のマイナスイメージを払拭してくれました。やはり地域も病院も品格を保ったものだけが厳しい時代を生き残っていくような気がします。



北海道十勝清水に来てみてどうですか？ 😊

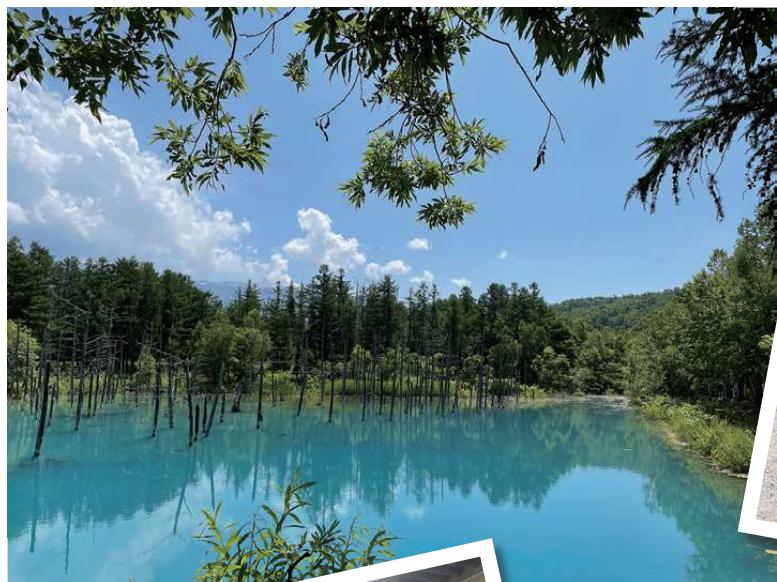
十勝清水にこんにちは！！

“北海道に来てみてどうですか？”

先日のS藤編集長からの問いかけに、しばし思いを巡らせました。“どうて…、せやなあ…。”心を空っぽにしてみると、浮かんできたのは、“楽しい”的の一言。何でやろ？

六甲おろしも、新喜劇の出囃子も、祇園祭りのお囃子も耳にすることのない毎日ですが、寂しいかと言わると違うなあ。自由気ままな一人暮らしや、涼しい気候もありますが、そういうことだけでもなさそうです。一番の理由は仕事の充実ぶりのような気がします。純粋に新しい分野の知識が増えしていく楽しさと、好奇心と向上心の塊のような若い先生方との触れ合いが、少しずつ自分の心の磨り減った部分をhealingしてくれているように思います。もう一つは、時間で仕事ができることのありがたさです。アフターファイブの充実が、日々の生活に今までになかった彩りを添えてくれています。全力で人生を謳歌されている先輩方の姿にも大いに感化されています(^^)。

“仕事=楽しい”、“アフターファイブ=楽しい”。結局ずっと楽しいやないか、と家族に叱られそうです。私の“楽しい”が、また巡り巡って周りの皆さんのが“楽しい”をたくさん引き出せますように。明日からもよろしくお願いします。



赤十字 フェスティバル

講演会

赤十字フェスティバル講演会を終えて

講演会では臨床工学技術課長の中田さんより「コロナワクチンの効果は今どうなっているの?」、山田副院長より「アフターコロナの認知症診療」と題した講演が行われました!当日会場には多数の病院関係者や町内の住民の方々が参加され、それぞれの講演終了後に質問をするなど皆さんとても積極的な姿勢でした!私自身、講演で特に印象に残ったのは山田副院長講演の世界では初めてアルツハイマー型認知症と診断された方の話です。普段歴史には興味のない私ですが、当時の療診記録を紹介されるとその情景が思い浮かびとても話に引き込まれました。今回の講演を終えて、講演会など滅多に参加しない私も講演内容・演者の話し方・口調等に個性が出ており、興味深い経験をすることができたと思いました。今後身近にこのような講演会があれば休みの日・仕事終わりでも講演を毛嫌いするのではなく会場に足を運ぶのも悪くないと考えを改めました。(^▽^)

3階看護師 岡井谷 洋紀

講演会院長



山田副院長



講演会町長



中田課長



パークゴルフ大会



令和5年5月27日に行われた地域の方々とのパークゴルフ大会に参加させていただきました。天気にも恵まれ、心地よい気候の下でプレーをすることが出来ました。パークゴルフは幼い頃に祖父や祖母とともに体験した事はありましたが、最初は打つ瞬間に力んでしまいなかなか真っ直ぐに飛ばず、地域の方々にアドバイスを頂きながらなんとか最後まで行う事が出来ました(地域の方々には大変ご迷惑をおかけしました・・・)最後は複数名が1位となり、プレーオフ決着となるなど全体を通して大変盛り上がる内容となりました。



また、ゲームの前後には参加者の血圧測定を行いましたが、多くの方々にご協力頂きました。運動前後の血圧の変動に驚いた様子の方々も多く、ご自身の健康状態を把握する良い機会となったと思います。

最後に、一緒にコースを周っていただいた参加者の皆様、本当にありがとうございました。地域の方の温かさに触れる事ができ、改めて地域交流の大切さを学びました。今後も機会があれば参加させていただけたらと思います。

リハビリテーション技術課 山川 航矢



炊き出し

5月27日に開催された「2023赤十字フェスティバル」で、清水町赤十字奉仕団の皆さんと、カレーライスの炊き出し訓練を行いました。カレーライスは同日開催されたパークゴルフ大会の参加者の皆さんや、来場された方々に振舞われ、150人前のカレーライスは完食に至りました。天候にも恵まれ、夏日に迫る暑さの中、大きな釜で大量の食材を混ぜ続ける作業は体力を要し大変でしたが、赤十字奉仕団や役場職員の方々、日赤職員で交代しながら行い、順調に調理を進めることができました。災害救護用の炊飯袋を使用した大量炊飯や、野外での炊き出し用かまどでの調理など、今回の炊き出し訓練に参加して、初めて目にすることがありました。万が一、災害などが発生し実際に炊き出しが必要となったとき、そこで初めて行うのと、一度体験したり目にしたことがあるのとでは、大きな差があるのではないかと感じました。今回来場された方々は勿論、来場されなかった方も、来年以降、赤十字フェスティバルが開催される際には、ぜひ一度足を運んで頂き、炊き出し訓練にも立ち寄って頂けたらなと思います。美味しいカレーライスも待っています。

暑い中、参加してくださった皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

栄養課 渕山 実里





BBQ 開催

放射線技術課
小原 穂波

清水赤十字病院焼肉パーティー開催！
7月11日、清水公園で焼肉パーティーを行いました。当日は直前に雨も降りましたが始まる頃にはおおかた止み、無事に開催することができました。

とっても美味しいお肉とお酒、弾む会話で楽しい時間を過ごすことができました。日頃なかなか交流できない他部署の方々ともお話しすることができ、大変有意義な時間となりました。

お忙しい中たくさんの方にご参加いただきありがとうございました。今後も親睦会で楽しい企画ができるように頑張りますので皆様のご参加お待ちしております。



人事消息

医師派遣 福岡赤十字病院

4月3日(月)～4月30日(日) 安井 隆晴
5月1日(月)～5月12日(金) 原 彩乃
5月15日(月)～5月31日(水) 木佐貫洋志
6月1日(木)～6月30日(金) 櫻井 優子

内科専攻医 名古屋第二病院

6月1日(木)～6月30日(金) 西尾誠一郎

臨床研修医

仙台赤十字病院

5月8日(月)～6月2日(金) 川端 真聖

名古屋第二病院

4月10日(月)～5月2日(火) 山崎 涼太
5月8日(月)～6月2日(金) 坂田 裕
6月5日(月)～6月30日(金) 加藤 祐樹

旭川赤十字病院

5月8日(月)～6月2日(金) 東海林 昇
6月5日(月)～6月30日(金) 宋 栄樹

姫路赤十字病院

6月1日(木)～6月30日(金) 貞廣あり紗

医学生 旭川医科大学

4月 4名

編集後記

4月から新生活をスタートした方も多いと思いますが、すでに3ヶ月が経過しました。早く感じた人もいれば長く感じた人もいると思います。私も新社会人ではないですが、4月から清水赤十字病院に勤めさせていただき、働いている職種は変わりないですが、環境も変わり人も変わり目まぐるしい3ヶ月を過ごしました。もちろん緊張や疲れも感じますが、新たに学ぶ事も多くもあり、充実した毎日を送れていると感じています。良くない部分には気付きやすいですが、良い点にも多く気付けるように成長していき、仕事だけでなくプライベートも両立しながらこれからも心身ともに充実させていきたいと思います。

リハビリテーション科
リハビリテーション技術課 清野 浩平

◆ 編集・発行責任者：佐藤 秀美

◆ 編集委員長：首藤 竹司

◆ 発行元：清水赤十字病院

◆ 印刷：東洋株式会社

〒089-0195 北海道上川郡清水町南2条2丁目1番地 TEL 0156-62-2513 FAX 0156-62-4460

URL <https://www.shimizu.jrc.or.jp/> MAIL contact@shimizu.jrc.or.jp